

(6) 北 陸



北陸地域では、景気は緩やかに回復している。

- ・ 鉱工業生産は緩やかに減少している。
- ・ 個人消費はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 雇用情勢は着実に改善している。

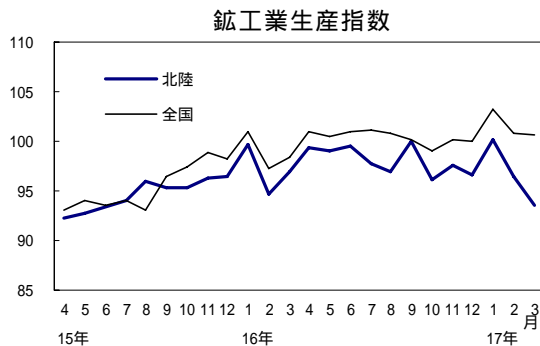
前回調査からの主要変更点

	前回 (平成 17 年 2 月)	今回 (平成 17 年 5 月)	
鉱工業生産	おおむね横ばい	緩やかに減少	
住宅建設	増加	減少	
雇用情勢	改善	着実に改善	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は緩やかに減少している。

一般機械は、金属工作機械、土木建設機械が高水準で推移したものの、半導体製造装置が減少したことから、全体でも減少している。電子部品・デバイスは電子部品が弱含んだものの、デジタル家電向けを中心に、半導体素子・集積回路が増加したことから、全体でも増加している。化学は、医薬品のOEM(相手先商標生産)受注増などに伴い、増加している。繊維は、非衣料品が自動車内装材を中心に堅調に推移したものの、衣料品が減少したことから、全体でも減少している。金属製品は、建築用金属製品、軽金属板製品が減少したことから3四半期連続で減少している。



- (備考) 1. 12年=100、季節調整値。
2. 平成17年3月の北陸は速報値。

域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

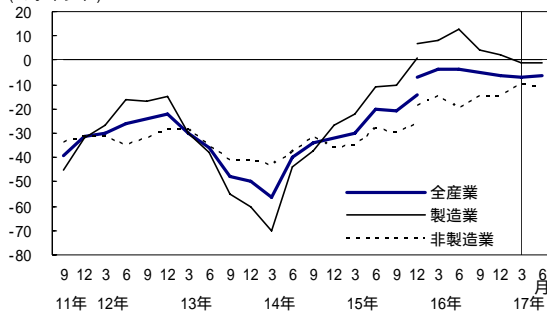
	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		10~12 月期	1~3 月期	1~3 月期	1~3 月期
一般機械	14.8	7.4	2.2	-	-
電子部品・デバイス	13.8	10.8	6.8	-	-
化学	12.7	7.3	5.2	-	-
繊維	12.4	1.5	3.6	-	-
金属製品	10.6	2.6	4.5	-	-
鉱工業	100.0	1.4	0.1	-	-

- (備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い15業種。
2. 1~3月期は速報値。
3. 出荷及び在庫指数は公表されていない。

(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が横ばいとなっており、資金繰り判断は「楽である」超幅が拡大している。

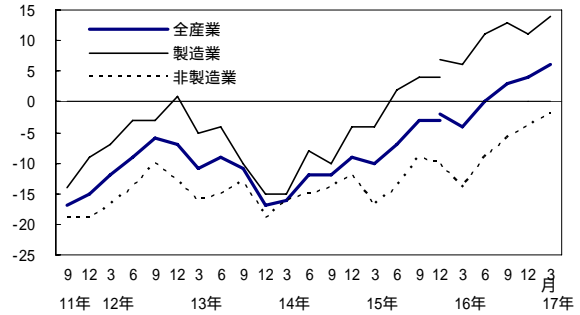
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査

(%ポイント) 企業短期経済観測 [業況判断]



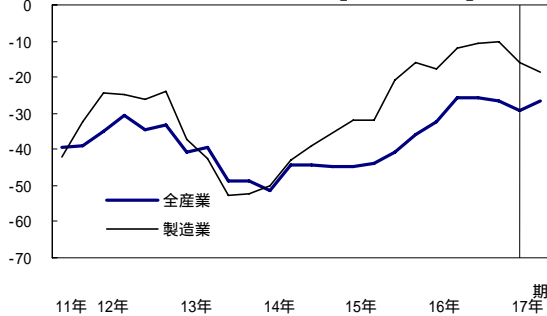
(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。17年6月は予測。
15年12月は新・旧基準を併記。

(%ポイント) 企業短期経済観測 [資金繰り判断]



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
15年12月は新・旧基準を併記。

(%) 中小企業景況調査 [業況判断]



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。17年 期は見通し。
中部地区。

景気ウォッチャー調査(4月)[企業動向関連(現状)]

「4月になっても受注が回復する兆しが無い(電気機械器具製造業)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

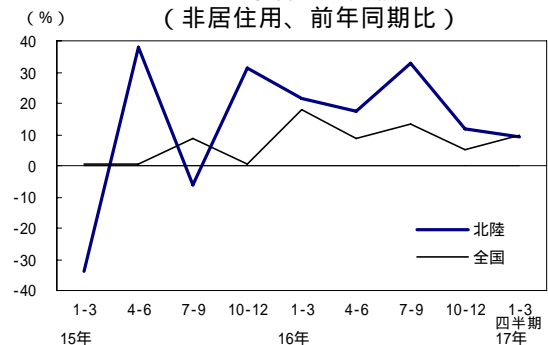
(3) 16年度の設備投資は前年度を大幅に上回る見込みとなっている。

企業短期経済観測調査 [設備投資(3月調査)]

	(前年度比、%)	
	16年度実績見込み	17年度見込み
全産業	22.8 (1.1)	10.1
製造業	52.9 (2.5)	10.5
非製造業	9.2 (1.1)	9.3

(備考) ()は前回(12月)調査比修正率。

建築着工床面積 (非居住用、前年同期比)



2. 需要の動向

(1) 個人消費はおおむね横ばいとなっている。

大型小売店販売額及びコンビニエンスストア販売額

百貨店は、1月は、飲食料品が2か月ぶりに前年を上回るとともに、身の回り品に動きがみられたものの、主力の衣料品が不振だったことから、全体では前年を下回った。2月は、気温が低く推移し、婦人・子供服を中心に春物衣料品が不振だったことから、前年を下回った。3月は、飲食料品が前年を上回ったものの、引き続き気温が低く推移し、春物衣料品が不振だったことから、前年を下回った。

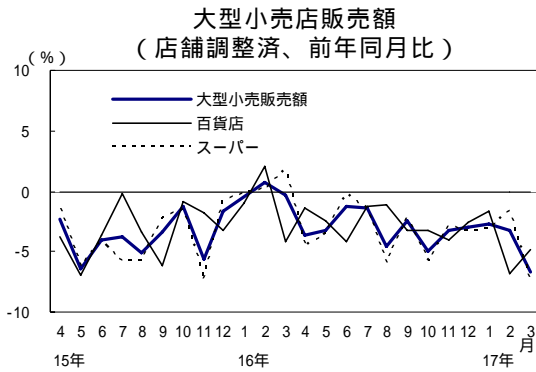
スーパーは、1月に衣料品が6か月ぶりに前年を上回ったものの、期間を通じて飲食料品が前年を下回ったことから、全体としては12か月連続して前年を下回った。

景気ウォッチャー調査(4月)[家計動向関連(現状)]

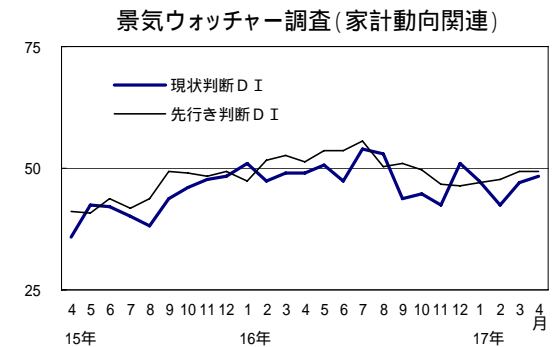
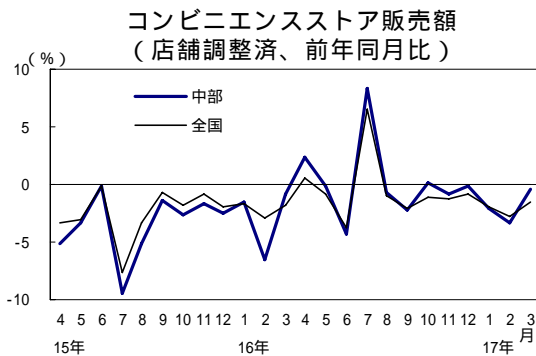
「引き続きテレビ、DVDが好調、パソコン及び関連商品は低調である。エアコンの出足が今一つ良くないが、洗濯機が売上、単価共に前年をかなり上回り、乾燥機能付き洗濯機が定着してきた(家電量販店)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(前年同期比、%)

	16年4-6月	7-9月	10-12月	17年1-3月
大型小売店	2.8	2.8	3.7	4.1
百貨店	2.7	1.8	3.2	4.3
スーパー	2.8	3.3	3.9	4.0
コンビニ	0.8	1.7	0.3	1.9
景気ウォッチャー	49.0	50.2	46.1	45.6



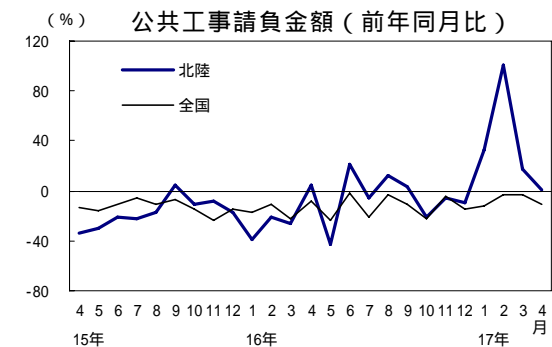
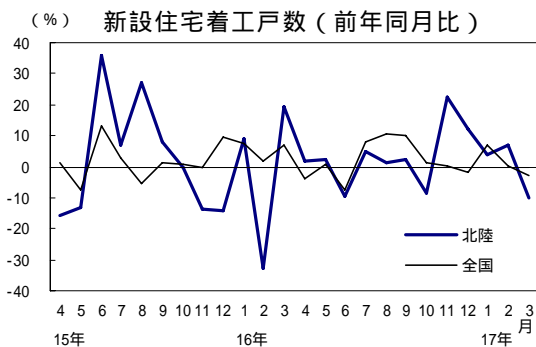
(備考) 1. 大型小売店は店舗調整済。17年1-3月期は速報値。
コンビニは店舗調整済。中部地区。
2. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断D Iの3か月平均。



(2) 住宅建設は減少している。

分譲が前年を上回ったものの、貸家が下回ったことから、全体では減少している。

(3) 公共投資は16年度累計で見ると、前年度とほぼ同水準になっている。

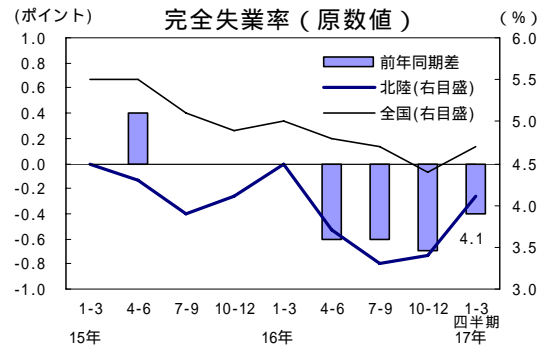
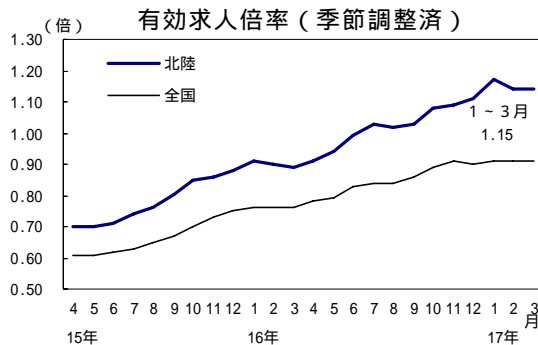


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は着実に改善している。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期を下回っている。



景気ウォッチャー調査（4月）[雇用関連（現状）]

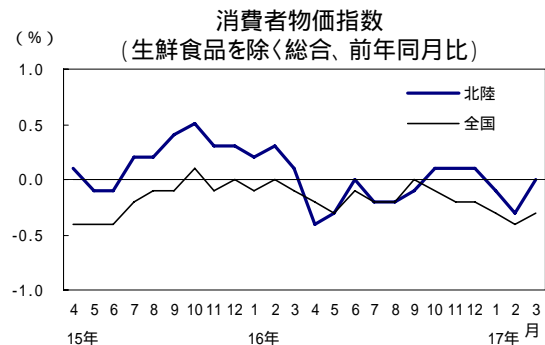
「全体的に求人依頼は堅調に推移している。CAD、経理関係の有資格者など、スキルの高いスタッフの募集が困難な状況である（人材派遣会社）」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は、件数、負債総額ともに減少している。

(3) 消費者物価指数はおおむね横ばいとなっている。

企業倒産

	（件、億円、％）				
	16年4-6月	7-9月	10-12月	17年1-3月	17年4月
倒産件数	94	75	66	71	15
（前年比）	6.0	33.6	21.4	29.7	58.3
負債総額	219	428	319	385	33
（前年比）	8.1	8.7	8.4	28.6	32.9



景気ウォッチャー調査（4月）[合計（特徴的な判断理由）]

<現状>

・製造業では受注残がかなり多く、休日の稼働日数も前年より多くなっている（金融業）

<先行き>

・原油の高騰でガソリン単価が上昇しているため、自動車販売には不利な状況が続く。また、販売車種も現在と変わらないため、現状維持が精一杯である（乗用車販売店）

景気ウォッチャー調査（合計）

